

平和と友情の思い込めたトーテムポール 和歌山県美浜町に寄贈準備中

彫刻家ダレン・イエルトンさんが製作中の高さ約4メートルのトーテムポールが、和歌山県日高郡美浜町三尾に贈られる。この計画は「カナダとの縁を町興しの一助に」という一人の願いが発端だった。本記事ではその願いからトーテムポール製作開始までのいきさつを紹介する。

過疎化の悩み

旧三尾村、現美浜町三尾地区はカナダとの縁深い地域である。ここからカナダへ最初に渡った工野儀兵衛の呼びかけで、1880年代から数多くの日本人が三尾からカナダに渡り、彼らの日加往来から三尾には洋風の住宅が建てられ「アメリカ村」とも呼ばれてきた。その美浜町から2018年10月、NPO法人日ノ岬・アメリカ村の一行がリッチモンド市スティープストンを訪れたが、その時語られたのは高齢化、過疎化の悩みだった。

カナディアンビレッジ構想を手

過疎化の悩みを知り、日本-カナダ商工会議所会長のサミー高橋さんは「カナダにいる自分たちのできることはないか」と考えた。それは同会議所の掲げるミッション「日本とカナダをつなぐ」に沿った活動が常に彼の関心事だったからだ。そしてまとめたのが日本とカナダをビジネス・文化・教育の面でつなぎ、日本内外から人を呼び込む「カナディアンビレッジ構想」だ。その草案を携えてバンクーバーから美浜町に飛び、町長や姉妹都市



白頭鷲には力と栄光の意味があるという

関係者に面会したのは2018年の12月。そこでは「絵に描いた餅」という批判も受けたが、「力になりたい」と強く背中を押してくれた人もいた。

ちなみに美浜町には地方創生の事業として2018年に産声を上げたプロジェクトがあった。古民家や施設を利用したカナダミュージアム、レストラン「すてぶすとん」、ゲストハウス「遊心庵」の開業である。またハードの面だけでなく、子どもたちの郷土愛を育てる活動も生まれた。地元の歴史や魅力を英語で語ろうという「語り部ジュニア」である。これらの活動を運営するのが先述のNPO法人日ノ岬・アメリカ村だ。

「カナディアンビレッジ構想」は、同法人と連携し、カナダとの絆を深め、経済発展をもたらすための提案であり、トーテムポール設置がその第一弾となる。

「観光都市に住む者として、人が集まる場の大事さを知っている。まずこのトーテムポールが美浜町に人を呼び込むランドマークとなれば」と、高橋さんは期待を語っている。

構想を実現するにあたり、資金の調達方法は誰もが憂慮した点で、高橋さんは当初クラウドファンディングを検討していた。しかしこれとは別に、大口出資者の可能性を探るため日本各地で構想を説明していたところ、2019年10月に工野儀兵衛氏の曾孫である高井利夫さん（兵庫県在住）を知ることで成功を収めており、先祖への感謝と敬意を形にしたいと願っていた。高井さんと高橋さんは意気投合。構想実現のためのNPO法人「国際協力推進協議会(CPIC)」を設立するまでに時間はかからなかった。

イエルトンさんとの出会い

「トーテムポール、トーテムポール……」資金のめどがついた高橋さんは、トーテムポールの製作者探しを始めた。そんなある日、近所のスーパーマーケットのセーブ・オン・フーズ（ノースバンクーバー所在）を訪れた時に店内にあったトーテムポールに目が留まった。カスタマーサービスのカウンターで製作者を尋ねたところ「私の知り合いだから彼（ダレン・イエルトンさん）の電話番号を教えるわ」と即答を得た。その場で高橋さん



材料には樹齢350年の赤杉を使用している

はイエルトンさんに電話し、その2時間後に彼との面会が実現。すぐに彼の作品を見て回るようになったのだ。ちなみにセーブ・オン・フーズのトーテムポールは、BC州屈指の事業家ジム・パティソンさんの依頼でイエルトンさんが製作したものである。

平和と友情のスピリットを運ぶ

製作中のトーテムポールの頭頂部を飾るのは白頭鷲。その白頭鷲は「カヤッチン」という案内人を抱えている。「カヤッチンは人々を聖地へと誘いますし、平和と友情を表す存在でもあります」（イエルトンさん）。その下には人々に強さをもたらす熊が彫られる。そして熊が手にする鮭は、生まれ故郷を離れ、また故郷の川に戻る生命の循環を意味する。

このトーテムポールと工野儀兵衛氏の胸像が三尾のカナダミュージアムの敷地内に設置される予定だ。2020年12月には先住民の人々の手でバンクーバーから送り出しの儀式をし、美浜町でも同様に迎え入れの儀式を行う計画である。

「まだこれは日加交流による町興し構想の第一歩」と高橋さん。次にはカナダの人なら誰もが知る飲食店を美浜町に誘致する計画を進めているという。カナダ側での支援者も徐々に集まってきており、支援者の多さによっては同プロジェクトが草の根レベルから、日加の経済的、人的交流の太い強力なパイプとなる可能性がある。「関心のある人は、ぜひ日本-カナダ商工会議所に連絡を」と高橋さんは多くの人の参加を希望している。

(取材 平野香利)



スコーミッシュ族でトーテムポール製作歴45年のダレン・イエルトンさん（写真右）とサミー高橋さん